

## I 研究主題・副題

主体的・対話的で、深い学びのできる「たかはるの子」の育成  
～各教科等の特質を踏まえた見方・考え方を働かせる授業づくり～

## II 主題設定の理由

今日の世の中は、社会構造の複雑化・多様化への対応、グローバル化がもたらす経済への影響、地球規模での環境問題、国際協調の足並みの変化等、難しい課題が山積する変化の激しい時代である。このような時代にあって、学校教育では、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。平成29年に公示された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められており、深い学びの鍵として、「見方・考え方」を働かせることが重要であると示されている。

本町は、小学校4校と中学校2校から成り、児童生徒数は約660名である。児童生徒は明るく素直で、指示されたことに対してまじめに取り組んでいる。しかし、学習への主体性、学習した内容の定着については個人差が大きく、読む力、書く力の育成とともに、話し合う力の育成も町全体の課題の一つとして挙げられる。本研究所では、昨年度「視覚化」と「発問」の工夫による全員参加の授業づくりを通して、主体性をもち、対話的な学びのできる「たかはるの子」の育成を目指してきた。発問の工夫により、対話的に学ぶことができたという成果の一方で、視覚化と発問双方の関連のさせ方についても研究を深めることが大切であるという課題もみられた。

そこで本年度は、町一貫教育との関連を図り、昨年度の研究を更に深化させていきたいと考える。理論研究では、「主体的・対話的で、深い学び」について具体的な姿などを整理していく。授業実践では、視覚化や発問などの工夫をしながら、主体的・対話的で、深い学びができるための鍵としての「各教科等における見方・考え方」を働かせることができるような授業実践を、町の教職員に提案、啓発していきたい。

このような研究を通して、高原町の教育目標「心身の教育を基盤にした学力向上とふるさと教育の充実」の具現化を図っていきたい。

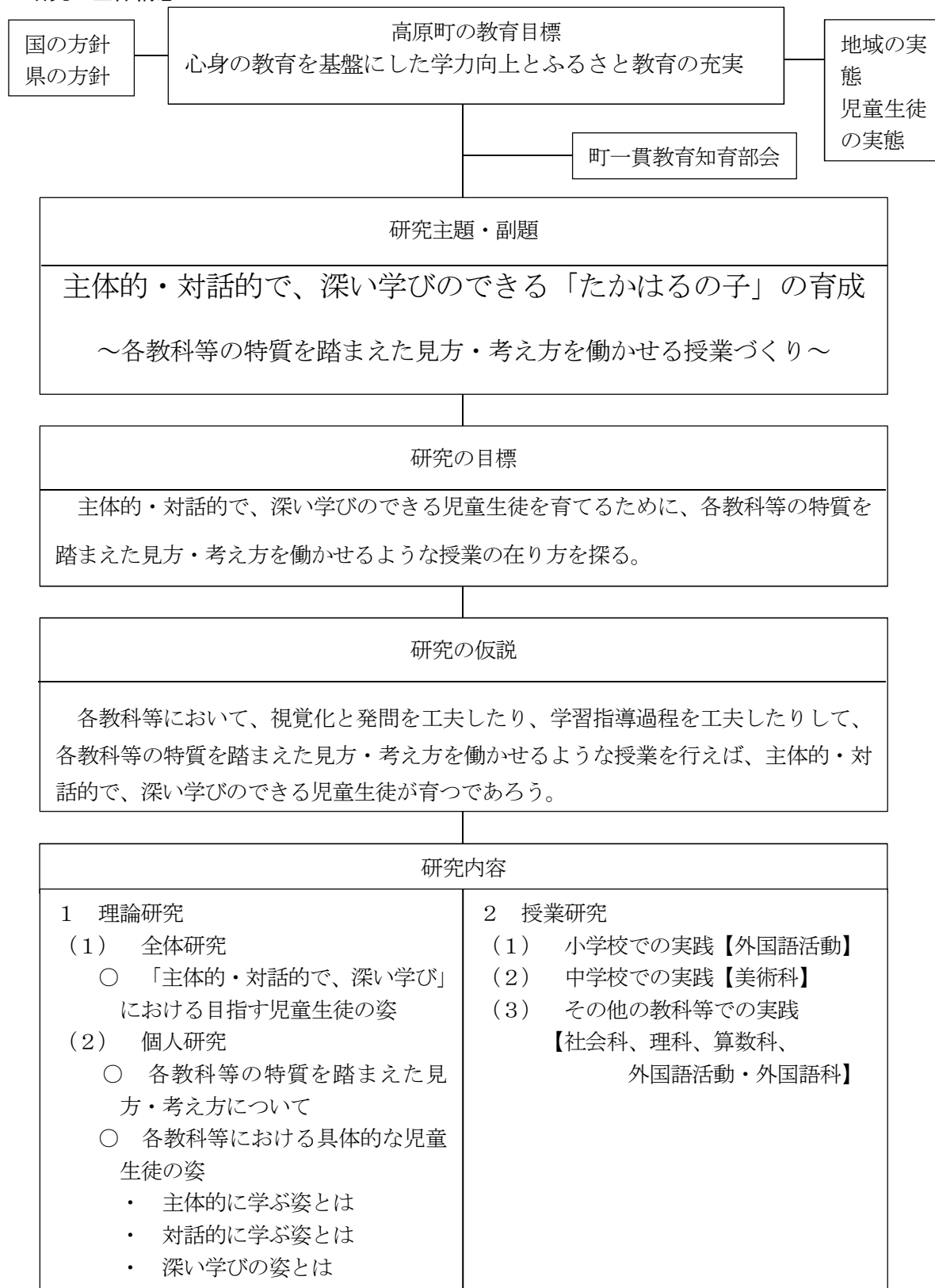
## III 研究目標

主体的・対話的で、深い学びのできる児童生徒を育てるために、各教科等の特質を踏まえた見方・考え方を働かせるような授業の在り方を探る。

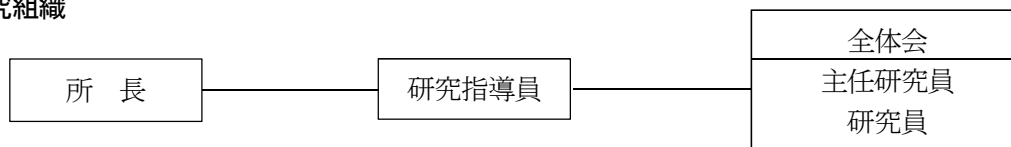
## IV 研究仮説

各教科等において、視覚化と発問を工夫したり、学習指導過程を工夫したりして、各教科等の特質を踏まえた見方・考え方を働かせるような授業を行えば、主体的・対話的で深い学びのできる児童生徒が育つであろう。

## V 研究の全体構想



## VI 研究組織



## VII 研究の実際

### 1 「主体的・対話的で、深い学び」における目指す児童生徒の姿

主体的・対話的で、深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、新学習指導要領解説・総則編に次のように示されている。

主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動をふり返って次につなげること
対話的な学び	子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めること
深い学び	習得・活用・探究という学びの課程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすること

そこで、本研究所では、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を次のように捉え、具体的な児童生徒の姿を整理した。

	それぞれの学びのイメージ	具体的な児童生徒の姿
主体的な学び	○ 目的意識をもって、自分の意思で決定・行動し、自分のこととして問題をとらえ、自分のこととして取り組んでいる。	○ 忘れ物をせず、進んで考えたり自分の考えを表現したりしている。 ○ 問題解決に向けて見通しをもち、最後まで粘り強く学習に取り組んでいる。 ○ 学習活動や自分の学習状況を振り返り、次の学習への意欲と見通しをもつことができる。
対話的な学び	○ 話に一貫性や主張があり、双方向である。充実感があり、広がりや深まりがある。	○ 子供同士、教職員や地域の人との対話を通して、自分の考えのよさに気付いたり、新しい考え方に気付いたりしている。 ○ 対話に加えて、本を通して自分の考えをより妥当なものにしたり、新しい考えに気付いたりしている。
深い学び	○ 身に付けた知識・技能が互いにつながり、絡み合う。または身に付けた知識・技能を異なる場面や状況で活用でき、充実感や感動を味わう。	○ 既習事項や経験したことをもとに、問題解決を図っている。 ○ さまざまな情報を関連付けて考えている。 ○ 感性を働かせて、自分の思いや考えを創造している。

これをもとに、各教科等における具体的な児童生徒の姿を個人で整理し、授業実践を進めていくこととした。

1 研究テーマ

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた  
「楽しい!」「もっと学びたい!」と実感できる授業づくり

2 研究の実際

(1) 理論研究

① 本研究における見方・考え方(外国語活動)

- 自分の考えや気持ちを伝えるための英語表現を知る。
- 外国の文化について知る。
- 他者の考えや気持ちを反応しながら聞く。
- 目的・場面・状況に応じて自分の考えをまとめる。
- コミュニケーションの場において即興で話す。

② 目指す具体的な児童の姿

主体的な学び

- 「今日はこの学習を頑張ろう!」
- 「今日は○○さんにインタビューしてみよう!」



対話的な学び

- (振り返りシートに) 「こんなことができるようになった!」「○○さんの好きなものを知れてうれしい!」
- “Oh!” “That’s good!” “Me too!”

深い学び

- 「これを伝えたいからこの表現が言えるようになりたい!」
- (クイズを考える際に) 「○○くんのヒントの出し方を参考にしよう!」

(2) 授業研究

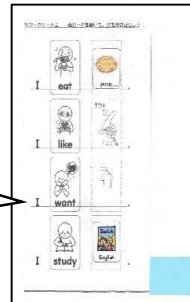
- 第6学年外国語活動 Hi, friends!2 Lesson5 “Let’s go to Italy” 第3時
- 第6学年外国語活動 We Can!2 Unit3 “He is famous. She is great.” 第6時

① 主体的な学びを促す視覚化の工夫



- マッチングゲームをし、児童が知らず知らずのうちに“I eat cake!” “I study Japanese.”などと口ずさみ、表現に慣れ親しんだ。

- 絵カードを用いて無理なく自分の言いたいことを文に表すことができた。



② 対話的な学びを促す反応のさせ方の工夫



児童 A “I eat nuts. I like nuts. I want a Donguri.  
What’s this?”  
児童 B “Oh, a リス?”  
児童 A “Yes! “That’s good!”

- 単にクイズを出し合うだけでなく、相手の言うことに反応しながら対話をした。

③ 深い学びを促す場の工夫

- ALT の先生にオススメの国を紹介するために、その国のどの食べ物や場所を紹介するかを話し合ったり、全体でリハーサルをすることで他の班のよさを取り入れたりした。



1 研究テーマ

社会的な見方・考え方を働かせる授業づくり

2 研究の実際

(1) 理論研究

① 本研究における見方・考え方 (社会科)

社会的な事象を、地理、気候、歴史、人の流れや暮らしなどの視点をもとに捉え、比較・分類したり統合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けて考えたりすること。

② 目指す具体的な児童の姿

【主体的な学び】

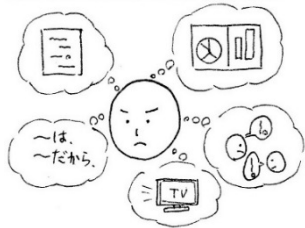
- 本やニュースで見たのと同じだ。
- ネットや資料集でも調べたい。
- ~に生かせないか考えてみよう。

【対話的な学び】

- (図表から) グラフが変化しているぞ。なぜだろう。
- (文章から) 農家の人はこんな取組をしているのか。
- (話し合いから) ぼくはこう思うんだけど、どう？

【深い学び】

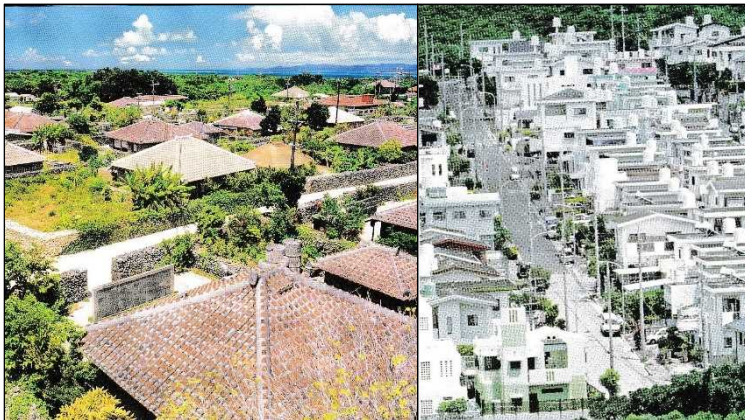
- 農業と漁業には共通点があったんだ。
- いろいろある中で、これとあれが一番大切だと思う。
- 先人の苦勞が今の生活を支えている。
- 外国との付き合いは、友情と信頼の考え方だな。



(2) 授業研究 【第5学年社会科】

提示資料と発問を効果的に組み合わせることで、主題の達成を目指した。

① さまざまな土地の暮らし (沖縄県)

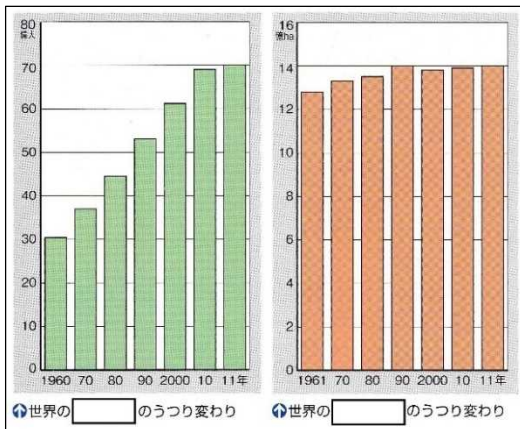


沖縄の家づくりを学習する際、昔の家と現在の家を比較しながら特徴をつかむようにした。

「昔と今で、ちがうところや同じところをなんでも言ってください。気候がヒントになるよ。」

沖縄の気候という視点から、それらの特徴はいずれも台風や日照りに合わせたものであることの理解を深めていった。

② これからの食料生産



「2つのグラフから何が言えますか。」と問い、耕地面積が世界の人口増に比例していないことの危うさを考えさせた。

③ 自動車工業のさかんな地域

**自動車会社の池田さんの話**

自動車会社では、社会の□や消費者の□などをくわしく調べています。その調査の結果や会社の技術力をもとに、新しい自動車のデザインを考え、車体や部品の設計をおこないます。その後、実際に自動車をつくり、自動車の性能や、しょうとつ実験など、□に運転できる自動車かどうかさまざまな実験で確認し、新しい自動車ができるのです。

また、世界では地球温暖化が大きな問題になっています。そのため、石油にかわる新しいエネルギーを使う、□を出さない、□にやさしい自動車の開発にも力を入れています。

自動車の開発は何を念頭に置いたものであるか、ノーヒントで考えさせた。既知の情報や前後の文章から推測することを促した。



1 研究テーマ

科学的モデル図を活用し、対話的で科学的なものの見方や考え方を獲得する理科学習指導の在り方

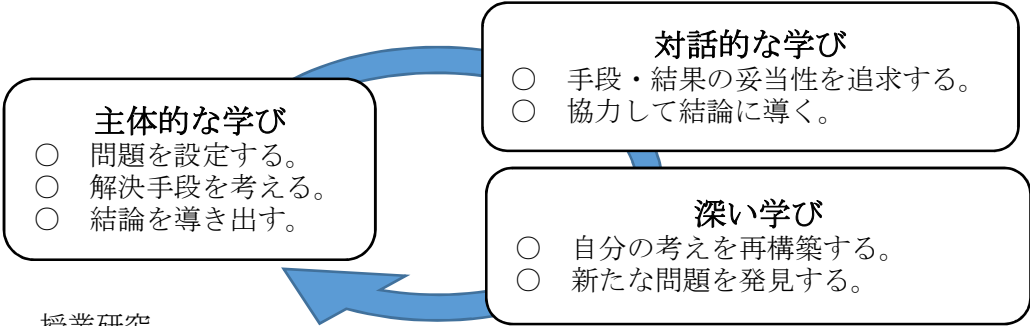
2 研究の実際

(1) 理論研究

① 本研究における見方・考え方 (理科)

A「エネルギー・粒子」		B「生命・地球」	
エネルギー	粒子	生命	地球
○とらえ方	○存在 ○結合	○構造と機能	○地表面の変動
○変換と保存	○保存性	○連続性	○大気と水の循環
○資源の有効利用	○エネルギー	○環境とのかかわり	○環境とのかかわり
事物・現象を「性質や働き、規則性」として考える。		事物・現象の「成長や働き、環境とのかかわり」について考える。	

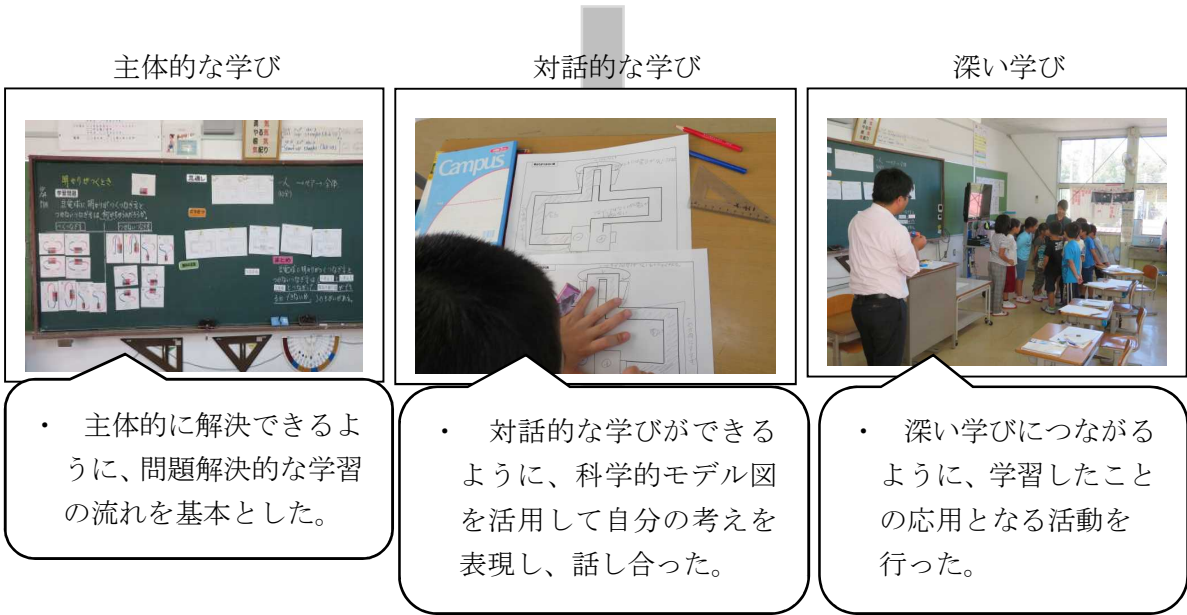
② 目指す具体的な児童の姿



(2) 授業研究

【第3学年「電気で明かりをつけよう」】

児童の見方・考え方【授業前】



理科の見方・考え方の獲得【授業後】

1 研究テーマ

算数科複式指導における視覚化や発問の工夫

2 研究の実際

(1) 理論研究

① 本研究における見方・考え方 (算数科)

- 数量や大きさに着目する。
- 変化や規則性に着目する。
- 図形の構成要素、構成要素の位置関係、図形相互の関係に着目する。
- 差や倍で比較して考える。
- 帰納的に考える。
- 目的に応じて、適切なグラフは何かを考える。 など

② 目指す具体的な児童の姿

【主体的な学び】

- 前習ったあの方法が使いそうだ！
- 今日はこれが分かった！でも、この部分がまだ分からないな？

【対話的な学び】

- 図や式を使って説明すると・・・。
- 自分の考えと違うな。
- こっちのほうが簡単そうだ。
- 何でそうなるの？

【深い学び】

- この方法は、ふだんの生活 (他の教科のまとめでも) でも使いそうだ。
- (実際の生活場面で) 算数で習ったことを使えたよ。
- 今日習った方法だと、速くて、簡単に正確にできるぞ。

(2) 授業研究 【(主)：主体的な学び (対)：対話的な学び (深)：深い学び】

① 学習指導過程の工夫



- 「同時間接指導」を取り入れることで、両学年の実態が把握でき、考えを深めることができた。(対・深)
- 習熟の時間に振り返りを書かせることで、児童自らが分かっていることと分かっていないことが分かった。(主)

② 視覚化の工夫



- 前時のまとめを教室に掲示することで、児童がそれを見ながら考えることができた。(主)
- 自分の考えを説明しながら書き加えていくことで、より分かりやすい説明ができた。(対)
- いくつかの考えを並べることで比較ができ、数学的なよさに気付くことができた。(深)

③ 発問の工夫



- 思考を揺さぶる発問により、何とかして解決しようとする姿が見られた。(主)
- ある部分に着目させる発問で、数学的なよさに気付くことができた。(対・深)

1 研究テーマ

造形的な見方・考え方を働かせた授業づくり

2 研究の実際

(1) 理論研究

① 本研究における見方・考え方 (美術科)

自らの経験をもとに、他者の考えに触れ、多様な考え方を理解することで、自分としての意味や価値をつくりだそうとする。

② 目指す具体的な生徒の姿

○ 「主体的な学び」とは

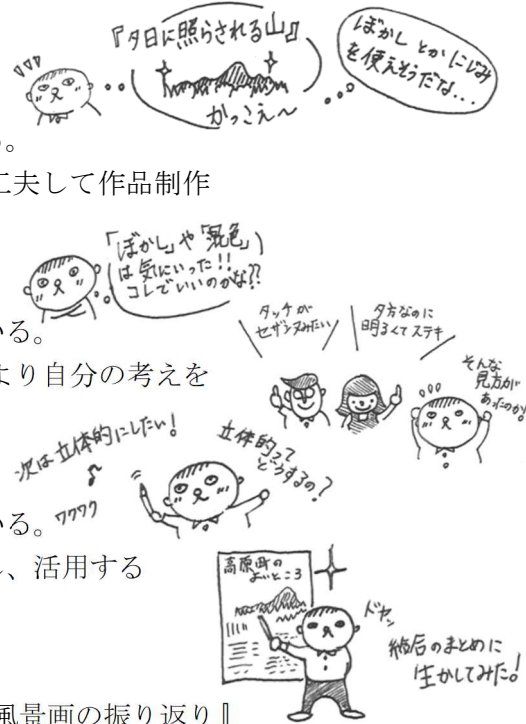
- ・ 題材に応じて自ら主題を生み出そうとする。
- ・ 既習した要素や技法などを取捨選択し、工夫して作品制作に取り組んでいる。

○ 「対話的な学び」とは

- ・ 自分自身と向き合い、成果を振り返っている。
- ・ 鑑賞活動をとおして、多様な考えに触れ、より自分の考えを具体的にしようとしている。

○ 「深い学び」とは

- ・ 次作品に向けてより明確な意欲をもっている。
- ・ 授業外において、既習事項や経験を生かし、活用する場面を自ら探し、実践している。



(2) 授業研究

授業実践 11月 16日 美術2年1組 『風景画の振り返り』

○ ワークシートの工夫

自己や他者との対話をとおして、作品制作を振り返る。①～③の順で展開し、学習したキーワードや、造形的な視点をもとに作品を鑑賞することで、自己の考えを深めさせる。

①昨年と今年と作品を比較し、自己評価する。

今年作品の採点 (100点満点)

90点

付箋

遠近法で色2あり、写實的に描いた。

ポールの影と、オアシスの影を写實的に描いては

写實的に描いたけれど描かなくて良かったと使用しては

ポールの影とオアシスの影を写實的に描いた。

遠くオアシスを描いては

②色別の視点をもとに、班でコメントを書き合う。

赤視点 1

緑視点 2

黄視点 3

③自己評価と、友だちの評価をもとに、自己の考えを深める。

★昨年の作品と比較して					
	視点① 構図	視点② 色彩、タッチ	視点③ 全体の雰囲気	満足度	がんばったところ
昨年	(A) B C	A (B) C	A (B) C	A (B) C	1つの景色ではなく、色と色の色で、かたどる色で
今年	(A) B C	(A) B C	(A) B C	(A) B C	ポールの影を写實的に見るように、タッチを削る

※とめ

昨年は、上点透視法だけで、写實的に描いたが、今年は、遠近法と影をも写實的に描くことができました。ポールを立体的に描きかかったので「ポールが」と



1 研究テーマ

外国語活動・外国語科における見方・考え方を働かせた授業づくり

2 研究の実際

(1) 理論研究

① 本研究における見方・考え方 (外国語活動・外国語科)

- ・日本語や日本文化を大切にする。
- ・日本や世界の言語や文化に関心を持つ。
- ・日本と世界の言語や文化の違いに寛容になる。
- ・日本や世界を見るとき、多様な着目点があることを知る。
- ・見たり、聞いたりした外国語やジェスチャーに興味を持ち、適切に活用できる。
- ・外国語を使ったコミュニケーションを楽しむ。

② 目指す具体的な児童生徒の姿

**主体的な学び**

- ・外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、外国語をもっと理解したい、外国語を使ってもっと伝えたいと思い学習に取り組む。

**対話的な学び**

- ・外国語やジェスチャーを使って自分の思いや考えを伝え、相手の思いや考えを理解しようとする。
- ・日本語と外国語の違いや、文化の違いに気づき、関心を持ち、理解を深めようとする。

**深い学び**

- ・学んだことや、経験したことを生かし豊かな表現力を習得していく。
- ・言語の違いや文化の違いに好奇心を持ち、尊敬や畏敬の念を持ち国際理解を深めていく。

外国語の勉強を頑張るぞ。

話すって楽しい。世界ってすごい。

もっと世界のこと知りたいな。もっと勉強して自分の気持ちを伝えたいな。

(2) 授業研究

○ 視覚化を工夫した授業づくり 【中学3年生 (Program 7-1)】

「make+人+形容詞」を使って、週末の出来事を聞かせました。その後の活動の助けになるように、“make me happy”や“make me sleepy”を以下のように視覚化しながら話しました。



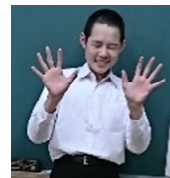
**make**

アクションカードの make sushi の make をジェスチャーで表現。



**me**

自分を三本指で指す。I の代名詞の3番目“me”を三本指で自分を指すことで視覚化。



**happy**



**sleepy**

形容詞をジェスチャーで視覚化。

## Ⅷ 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

#### (1) 主題・副題等に関して

- 研究主題の中に「深い学び」を追記したことで、新学習指導要領の趣旨を踏まえた研究を推進することができた。

#### (2) 研究全般に関して

##### ① 理論研究

- 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」「各教科等についての見方・考え方」について、深く考える機会となり、具体的な児童生徒の姿を明確にすることができた。
- 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」についてのイメージや児童生徒の具体的な姿を共通理解することで、授業改善を図ることができ、授業の様子を『研究所だより』として発行し、町内の教職員へと広めることができた。

##### ② 授業研究

- 発問や視覚化などの工夫により、児童生徒が主体的に学習に向かう姿が多く見られた。
- 主体的・対話的に学ぶことで児童生徒が互いの考えを受けて自分の考えを再構築するなど、深い学びへとつなげることができた。
- 異なる教科等についての事前研究や授業参観を通して、それぞれの研究員の指導の工夫や教科等の特性を知ることができた。
- 小学校外国語活動と中学校美術科の授業については、県教育研修センターや宮崎大学との連携により、研究員以外の教職員の意見等も聞くことができ、研究をより深めることができた。

### 2 研究の課題

- 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」ができていくかどうかなど、評価の工夫が必要である。
- 授業については個人研究の色合いが濃く、研究全体としての深まりがあまり見られなかった。
- 今後も町内の各学校へ、「各教科等における見方・考え方」を踏まえた授業実践事例を発信し、紹介していく必要がある。

### ○ 参考文献

- ・ 「小学校学習指導要領」 平成29年3月 文部科学省
- ・ 「中学校学習指導要領」 平成29年3月 文部科学省
- ・ 「平成29年度 調査研究報告書・教育研究論文集」 平成30年2月 高原町教育委員会
- ・ 「平成29年度 宮崎県教育研究機関連絡協議会 研究収録」 平成30年2月 宮崎県教育研究機関連絡協議会

### ○ 研究同人

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
教育委員会	所長	西田 次良	狭野小学校	研究員	米村 彰
教育総務課	研究指導員	田鍋 友皇	後川内小学校	主任研究員	森 茂人
高原小学校	研究員	茅野 聡美	高原中学校	研究員	立花 克樹
広原小学校	研究員	富士本 次洋	後川内中学校	研究員	馬場 公子